

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

益城町長

市町村名 (市町村コード)	益城町 (43443)
地域名 (地域内農業集落名)	小谷・杉堂地区 (上小谷、下小谷、杉堂)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年1月17日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当該地域は、小谷地区と杉堂地区で構成されており、露地野菜や施設野菜の栽培が盛んな地域である。

【共通課題】

イノシシ、シカ、アナグマ、ハクビシンなどによる鳥獣被害が多く、侵入防止柵の設置の手間が多い。
全体的に用水不足が懸念されている。
耕作放棄地が存在している。

【小谷】

農道は幹線道路への抜け道になるため、一般通行車両が多く、大型車による農道破損も存在する。
区画が整理されている農地については、利用率が高く、担い手が規模拡大するには農地が足りない。
若手が少なく、農地、農道などの保全・維持活動の参加者が減少しており、活動が困難になりつつある。

【杉堂】

排水路の整備が十分ではなく、雨水排水が難しい。
基盤整備未実施のため、畑の形が悪く、農道も狭い。
農業後継者が少ない。

主な作物:カンショ、ダイコン、スイカなど

(2) 地域における農業の将来の在り方

【小谷】

カンショなどの野菜を安定的に栽培し、地域を維持していくため、若い担い手や農業従事者が確保され、若手もベテランも営農活動を行い、地域内での営農連携を図りながら、人手不足の解消や出来ている状態を目指す。また、耕作条件が厳しい農地についても、何らかの利活用がなされ、耕作放棄地の解消を目指す。

【杉堂】

カンショなどの野菜を安定的に栽培するため、農道や農地などの整備(基盤整備)がなされ、それに併せて、農地が集積・集約された効率的な農業を営める地域づくりを行いながらカンショ(主に紅はるか)のブランド育成を目指す。また、鳥獣害被害に悩まされないことがないよう、地域ぐるみの対策がなされた状態を目指す。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	215.7 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	215.7 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

地域内の農振農用地を本計画の区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
【小谷】 農地を減らしたい人と増やしたい人のマッチングを推進。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
—
(3) 基盤整備事業への取組方針
【杉堂】 区画整理(水路整備・農道整備・ボーリング)を検討していく。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
【小谷】 近隣に位置する東海大学農学部 of 学生など、学生に農業に触れてもらい、そこから、担い手育成の機会を得ることを検討していく。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
【小谷】 カンショの収穫を専門的に行うような専門の事業者が存在すれば活用をしていく。 【杉堂】 ドローンでの一斉害虫防除に対応する事業者が存在すれば活用を検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

【共通】

鳥獣被害防止対策として、侵入防止柵を地域全体で囲むことを検討する。

【小谷】

雇用労働力確保のため、農繁期と農閑期をうまく振り分けて、東海大学農学部 of 学生をアルバイト雇用する仕組みの構築を検討する。